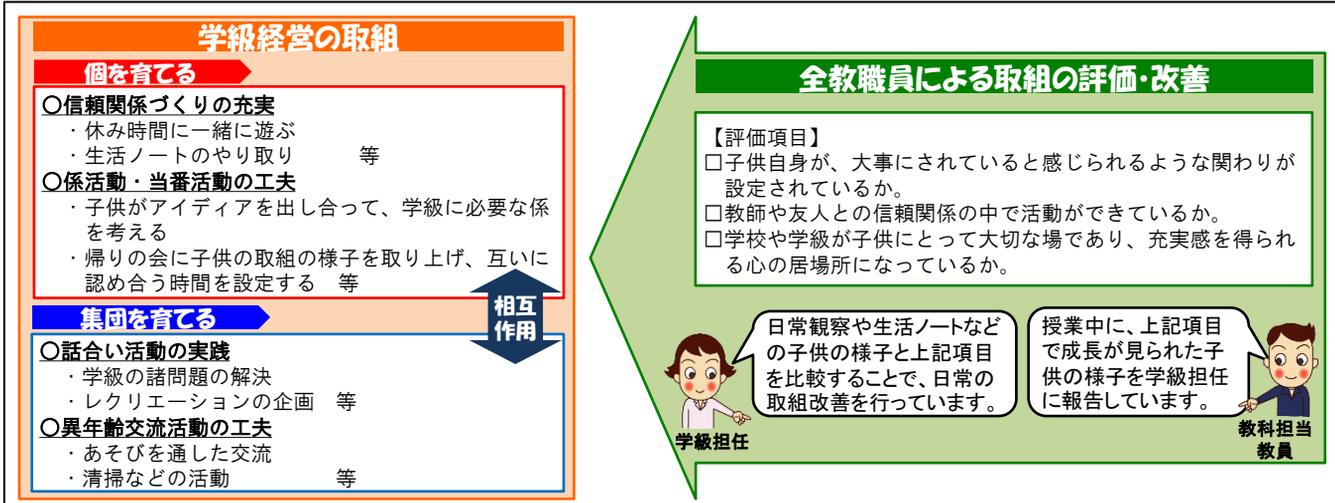


一人一人に寄り添った学級経営を充実させましょう

管内における、過去3年間の不登校児童生徒数の推移を見ると、小学校が+50%、中学校が+16%の増加傾向にあり、不登校問題への対策は喫緊の課題です。これらへの取組の充実を図るためには、**新たな不登校児童生徒が生じないような魅力ある学校づくりが大切であり、その基盤は学級経営の充実**です。

下の図は、群馬県教育委員会が作成した「不登校対策資料」※1を参考に、児童生徒一人一人が安心して生活できる学級にするための取組例を示したものです。図を参考に、**個を育てる活動と集団を育てる活動の相互作用**を生かした指導・支援の工夫、**全教職員による取組の評価・改善**を通じた、児童生徒一人一人の課題や立場に寄り添った支援を心がけましょう。



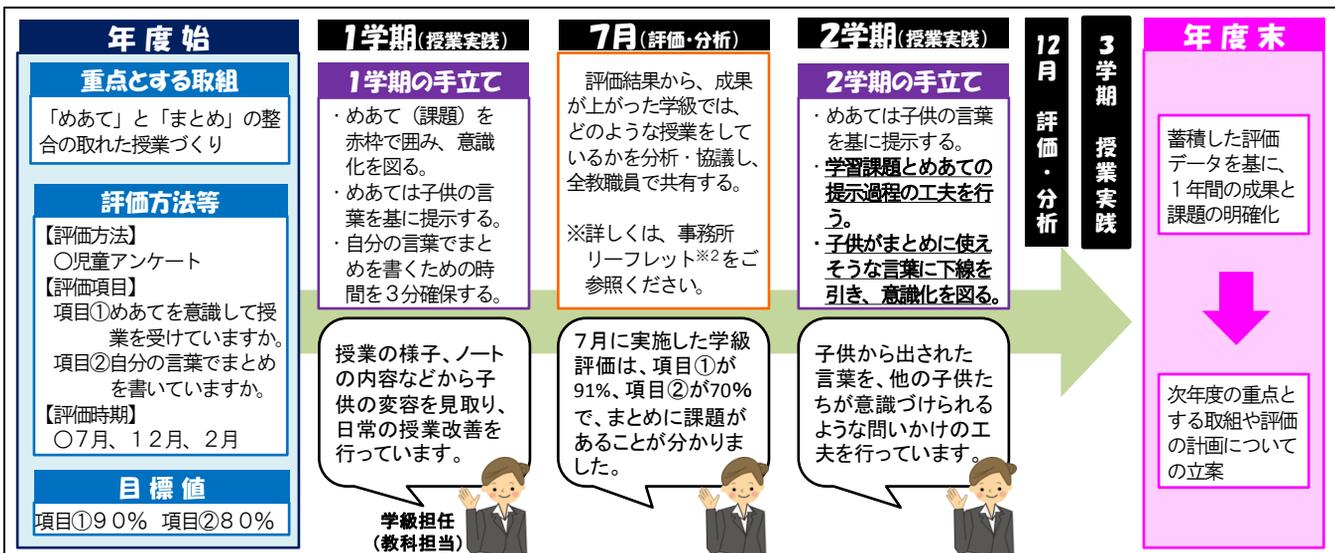
※1 不登校対策資料（平成29年1月、群馬県教育委員会） URL http://www.nc.gunma-boe.gsn.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=968

PDCAサイクルを生かし、1年間の見通しをもった学力向上を推進しましょう

昨年度の成果として、学力向上計画に取組重点や評価・分析の時期、目標値を示し、組織的な学力向上の取組を意識する学校が増えています。その一方で、計画に位置づけた評価・分析が上手く機能せず、短いサイクルによる取組の改善が進んでいない学校も見られます。

評価・分析を生かした取組を推進するためには、**各教職員が取組の目標値達成に向けて、何をどの程度行えばよいのか目安となる手立てを明確にし、日常の授業改善に生かすことが大切です。**そして、**子供たちの姿や変容に関する調査や各種データに基づいた一貫性のある評価・分析**を、学力向上対策のサイクルに位置付け、取組の改善を図ることが、学力向上につながります。

下の図は、重点とする取組を『「めあて」と「まとめ」の整合性』とし、手立てに基づいた日常の授業改善と、全校体制による取組の評価・分析の流れを例示したものです。図を参考に、全教職員がPDCAサイクルを意識し、1年間の見通しをもった学力向上の取組を推進しましょう。



◎「評価方法を具体化し、年間の見通しをもって学力向上を推進しましょう！」(※2)と、「『めあて』『まとめ』の整合性を意識して授業を構想し、子供主体の授業づくりを充実させましょう！」の2種類の学力向上リーフレットを作成し、Webページに掲載中ですので、ご活用ください。